



若竹だより



【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切に作る人間となろう
③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八ヵ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

【巻頭言】

一緒に過ごす時間

園長 宮竹 恒

五色台の山に紅葉の季節が訪れるとともに朝夕の寒さを感じるようになりました。

ある日、A君が新聞を持って話しをしに来ました。新聞の一面を指さすので記事を見ると、修学旅行で訪れた寒霞溪の美しい写真が掲載されていました。

A君が、ニコニコしているのを見て、修学旅行が良い思い出になったことがよく分かりました。短い時間でしたが、新聞記事を見ながら楽しい時間を共有することが出来、嬉しく感じました。

行事だけでなく、子どもが誰と一緒に、どのような時間を過ごすかは、心身の成長にとっても重要だと思います。大切なことは、子どもたちのよく使う、「ひま」「居場所がある（ない）」という言葉に表れていると思います。

「こども食堂」を支えられている「NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」理事長 湯浅誠氏は、「居場所」が提供するものとして、①栄養や知識 ②体験（交流）③時間 ④生活支援をあげられています。

その中でとりわけ重要なものは、「時間」であるとされており、子どもが十分にかまってもらふ時間の大切さを語られています。子どもたちが十分に力を蓄え、自分から何かをしようと思うまでの時間が大切であることを示唆されています。

子どもが「ひま」と言う時、大人は「忙しい」と言い大事な関わりの時間が薄れているのかもしれない。

最近、子どもたちと職員と一緒にドッジボールの練習に励む姿を見て、思わず写真を撮ることがありました。男の子のほとんどが参加していました。亀山学園との交流に向けての練習だったのですが、熱気が溢れ、敵も味方もなく楽しく過ごしているように感じました。雰囲気の影響を受けたのか館内で過ごしていた子どもも外に出てきていました。

職員に聴くと、子どもも職員も一体感があり、とても良かったと話していました。

子どもたちと一緒に過ごす時間は、スポーツだけでなく、お菓子作りや工作等かもしれません。あるいは、一緒に居るだけで良い時もあるかもしれません。

学園が子どもたちにとって、心の栄養を蓄えられる「居場所」になるよう、一緒に過ごす「時間」を大切にしていきたいと思っています。

—了—



青峰・若竹学級だよ

修学旅行

11月2日に、中学3年生と小学6年生が合同で、小豆島へ日帰り修学旅行に行きました。

フェリー

往復のフェリーでは甲板に出て、屋島や五剣山、無人島を含む大小の島々や行きかう船を見つけて歓声を上げていました。当日は快晴で暖かく、自分に当たる風で髪や服がなびくの面白がってはしゃぐ児童・生徒もいました。



オリーブ公園

道の駅小豆島オリーブ公園では、オリーブ記念館でお土産選びを楽しんだり、昼食を食べたりしました。オリーブの原木を見た後、昼食のメニューにオリーブがあったため、興味をもって食べていました。料理にオリーブオイルをかけて食べることもでき、小豆島ならではの食事を楽しみました。



二十四の瞳映画村

二十四の瞳映画村では、散策したり昔のおもちゃや文房具などそこでしか買えないようなものを探して買い物をしたりする姿が見られました。



寒霞渓

寒霞渓では、ロープウェイから見下ろす景色の美しさに驚いていました。山頂では紅葉している木々に囲まれておやつを食べ、記念写真を撮りました。



あっと言う間の旅行でしたが、思い出に残る1日になりました。



校外学習

修学旅行に行かない学年の小中学生は、瀬戸大橋記念館と瀬戸大橋記念公園に行きました。瀬戸大橋記念館では、瀬戸大橋についての展示を見たり、瀬戸大橋の上をサイクリングするシミュレーションをしたりして、楽しく学んでいました。公園の展望台から間近に迫る瀬戸大橋を眺めることもできました。

その後、沙弥島に移動して貝殻集めや魚探しなどをして遊びました。





今月から、各フロアでおやつ作りの活動を始めました。

【女子フロア】

みんなで話し合い、今回はミニドーナツとベビーカステラを作りました。



準備からみんなで協力し合い、和やかな雰囲気で行うことができました。「わたし生地混ぜるね。」「じゃあ、わたしドーナツ焼くね。」など、お互いに声をかけながら、楽しく進めることができました。

作っていく中で、「もっと生地に水を入れた方がいいかも。」「こうやったら綺麗に作れるよ。」などの声もあり、活発に会話をしながら作りました。



出来上がったおやつをその場にいなかった子どもたちや、職員にも食べてもらいたいとい

う意見があがり、おすそ分けしました。子どもたちの優しい思いのこもったおやつで、美味しいと好評でした。

次回も子どもたちのアイデアを借りながら楽しいおやつ作りが出来たらいいと思います。

【2階フロア】



中学3年生の子どもが、高校のオープンスクールで作ってきてくれたうどん生地を使って揚げドーナツを作ってみました。生地を伸ばす人、ちぎる人、丸める人、揚げる人、袋に詰める人…と、役割を上手く分けながら取り組んでくれました。子ども同士で声を掛け合って作業してくれ、職員は場を用意するだけで十分でした。味は塩味が強く、独特だったとのことでしたが、子ども達が「またやりたい」「楽しかった」と感じてくれたことが、何よりの収穫だったと感じています。



【3階フロア】

来月からスタートします。



10月23日に若竹学園から亀山学園に遊びに行きました！当日はサッカーとドッジボールで遊んでいます。若竹学園からは小学2年生～中学3年生までが遊びに行きましたが、亀山学園には高校3年生も遊びに参加していたので、高校生の雰囲気圧倒されることもありましたが、結果は、サッカーは2-0で負けて、ドッジボールも2-1で負けてしまったので、とても悔しい結果になりました。しかし、子どもたちにとっても学園外での交流は良い経験になったようで、また遊びに行きたいという声もありました。

11月27日に再度亀山学園に遊びに行く予定なので、今度は練習の成果が出せるように頑張っていきたいと思います。

コロナをチャンスに 新たな行事の取組

コロナの感染状況が緩和され、感染対策を徹底した上で、通常の行事等が実施できるようになりました。29日は全員参加のウォークラリー、少人数のグループで行く買物外出・靴の購入も企画することができました。

グループに行く場合、子どもたちは自分が1番に行きたいと思っているので順番を決めるのに、いつも頭を痛めていました。

買物外出は、中学生が期末テストのため小学生が最初にいきました。靴の購入は、1週間の授業出席率で決めました。その結果、いつもより出席率が上がりました。思った以上に効果があったので今後も取り入れたいと思っています。

初めての試みでしたが、子どもから不満もありませんでした。初めてのことは、職員にとっても不安ですが、今後も職員の色々な意

見を元にチャレンジしていきたいと思います。その中で上手くいかなかった場合は、全員で再度見直して再チャレンジし、子どもの見本になるよう前向きに進んでいきたいです。

11月行事

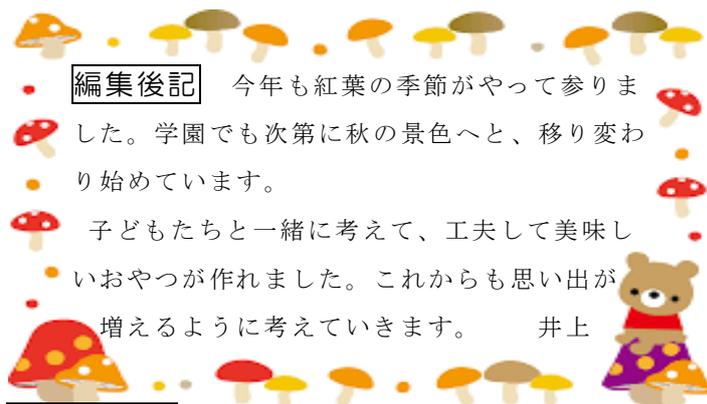
2日	修学旅行・遠足
10日	防災訓練
27日	亀山学園との交流
29日	ウォークラリー
24日、25日	誕生日ケーキづくり
19日、30日	買物外出

在籍人数 令和3年12月1日現在

区分	県内(人)	県外(人)	合計(人)
小学生	4	3	7
中学生	13	1	14
合計	17	4	21

ご寄付ありがとうございます。

たまや様 ウエットティッシュ等



編集後記 今年も紅葉の季節がやって参りました。学園でも次第に秋の景色へと、移り変わり始めています。

子どもたちと一緒に考えて、工夫して美味しいおやつが作れました。これからも思い出が増えるように考えていきます。 井上

第332発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

T E L 087-882-1000 F A X 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp>

Eメール wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 宮竹 恒

